



【学校教育目標】自ら考え、判断し、人と共により良く生きようとする心豊かな子供の育成

早いもので、令和7年も残すところあと1か月余りとなりました。師走（12月）、1年の締めくくりのときです。樹々が、はらはらと葉を落とし冬支度をするように、世の中も何かと慌ただしい日が続くようになります。学校も、2学期末を迎えるが、気持ちを落ちつかせ、学習の「まとめ」をしっかりと積み上げていきたいと思います。

また、最近は、市内の学校の多くでインフルエンザが流行しているという声を聞きます。学年・学級閉鎖も多く見られます。今のところ、小ヶ倉小学校では大きな広がりこそありませんが、例外ではありません。今後も引き続き油断せず、コロナウイルスも含め、継続して感染対策を講じていきます。御協力よろしくお願ひいたします。

感染症対策として

冒頭にも書きましたが、長崎市内の多くの学校で、多数の「インフルエンザ」罹患者と、さほど多くはありませんが「コロナウイルス」の感染も報告されています。子供たちへはこれまでどおり「うがい・手洗い」の励行を呼びかけ、定期的な換気を行っていきます。あわせて、マスクについても「着用を推奨」しようと考えています（感染予防のためのマスクです。給食準備時は必ず着用するように指導しています。）。もちろん、強制ではありません。御家庭の判断ができる範囲で構いません。各御家庭で、お子様にお声掛けいただけるとありがたいです。



そこで、罹患した場合の対応についてお知らせいたします。

各種感染症に罹患した場合は、【出席停止】の扱いとなります。特にこの時期多く見られるインフルエンザやコロナウイルスなどについて下表を御参照ください。

〈インフルエンザの出席停止期間〉

発熱日を0日とし、5日を経過し、かつ解熱後2日を経過するまで出席停止。

（感染期間は発熱1日前から3日目をピークとして7日ごろまで）

	発症日	発症後						
		0日目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
発症後1日目に解熱した場合				解熱後 1日目	解熱後 2日目	発症後 5日以内 登校不可	発症後 5日以内 登校不可	登校可能
発症後2日目に解熱した場合				解熱後 1日目	解熱後 2日目	発症後 5日以内 登校不可	登校可能	
発症後3日目に解熱した場合					解熱後 1日目	解熱後 2日目	登校可能	
発症後4日目に解熱した場合						解熱後 1日目	解熱後 2日目	登校可能

（※その後は、解熱した日によって出席停止日が準じ延期されていきます。）

〈コロナウイルスの出席停止期間〉

発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した（解熱薬を使用せずに解熱し、かつ、呼吸器症状が改善傾向にある）後1日を経過するまで出席停止。

	発症日	発症後						
		0日目	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目
発症後1日目に 症状軽快 した場合	発熱	軽快	軽快後 1日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	登校可能	
発症後2日目に 症状軽快 した場合	発熱	発熱	軽快	軽快後 1日目	発症後 4日目	発症後 5日目	登校可能	
発症後3日目に 症状軽快 した場合	発熱	発熱	発熱	軽快	軽快後 1日目	発症後 5日目	登校可能	
発症後4日目に 症状軽快 した場合	発熱	発熱	発熱	発熱	軽快	軽快後 1日目	登校可能	
発症後5日目に 症状軽快 した場合	発熱	発熱	発熱	発熱	発熱	軽快	軽快後 1日目	登校可能

（※その後は、症状軽快した日によって出席停止日が準じ延期されていきます。）

いずれの場合（その他の感染症）も、病院受診の結果を、保護者の方から連絡を受けた日から「出席停止」扱いとなります。わかり次第できるだけ早く御連絡ください。その際、医師からの診断（いつ発症したのかなど）も確実にお伝えください。また、インフルエンザ等の感染症と診断を受けた場合は、十分療養し、回復してから登校するようにしてください。御不明な点がありましたら、医師への相談または学校へお問い合わせください。御理解と御協力をよろしくお願ひいたします。



「気付き、考え、実行する」力を

子供たちには、日頃からいろんな場面で、「自分で考えて動く」という意味で『考動』という言葉を伝えています。

自分で気付き、判断し、考えて実行する子供が育つようするには、指示ではなく「気付き、考えさせる」時間や判断基準を与えてやることが重要です。やや時間がかかることかもしれません、ある程度時間がかかる内容だからこそ、教育する必要があると考えています。

「気付き」→「考え」→「行動する」このプロセスを大事に関わることがポイントです。何か失敗が起こったときは、この3つのどこかでつまずいていることが多いです。それが「気付き」がないからなのか、「考え」が足りないのか、「行動」に至っていないのか、どこにつまずきがあるのか考えると、同じ失敗をしないためにどうすればいいのかが、見えてきます。

一番してはいけないことは、「自分で考えなさい」と子供に言って、大人が判断基準を示さないこと、判断基準を話し合って決めてないことです。「自分で考えなさい」と言われても、どのように考えればいいか、考える方法を教えてもらわなければ、子供たちも困ります。ぜひ「気付き、考え、実行する」子供が育つように、ちょっと時間を作ってルールと一緒に作ってみましょう。